

# 歯学教育モデル・コア・カリキュラム —教育内容ガイドライン— 改定にあたって

調査研究チーム(歯学)  
東京医科歯科大学教授  
荒木孝二

## 文部科学省

モデル・コア・カリキュラム改定に関する連絡調整委員会  
(改定の決定)



モデル・コア・カリキュラム改定に関する専門研究委員会  
(改定素案の精査)



## 大学

調査研究チーム

(改定素案の作成、評価システムの検討)

## 調査研究チーム

- ◆平成22年度 先導的の大学改革推進委託事業
- ◆検討実施体制

	氏名	所属・職
国立大学 法人	荒木 孝二	東京医科歯科大学医歯学教育システム研究センター・教授
	大原 里子	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科・講師
	嶋田 昌彦	東京医科歯科大学歯学部附属病院長・教授
	俣木 志朗	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科・教授
	矢谷 博文	大阪大学大学院歯学研究科・教授
私立	河田 英司	東京歯科大学・教授
	中島 正博	大阪歯科大学・准教授
	桃井 保子	鶴見大学歯学部・教授

五十音順、敬称略

## 平成22年度 先導的<sub>レ</sub>大学改革推進委託事業

- 医学・歯学教育の改善・充実に関する調査研究
- 検討項目  
モデル・コア・カリキュラムの改訂  
臨床実習等に係る評価システムの構築

歯学教育の改善・充実に関する調査研究協力者  
会議  
第1次報告  
～確かな臨床能力を備えた歯科医師養成方策～

平成21年1月30日

1. 歯科医師としての必要な臨床能力の確保
2. 優れた歯科医師を養成する体系的な歯学教育の実施
3. 歯科医師の社会的需要を見据えた優れた入学者の確保
4. 未来の歯科医療を招く研究者の要請

・文部科学省・厚生労働省が緊密に連携し、モデル・コア・カリキュラム、共用試験、国家試験、臨床研修を含め、卒前・卒後教育を一体的に捉えた検討の場の設置を要請

## 医学・歯学教育指導者のためのワークショップ

7月28日(水)

### ◆グループ別セッション(午前)

- ①モデル・コア・カリキュラムの改訂の方向性
- ②臨床実習に係る評価の在り方について

### ◆全体セッション(午後)

### ◆グループ別全体報告会・総合討論(午後)

## 医学・歯学教育指導者のための ワークショップでの意見 モデル・コア・カリキュラムの改訂の方向性

### ★基本的診療能力の確実な修得

- ・新しい教育方法の導入→負担が大きい  
基礎-臨床融合型統合科目、PBL授業  
シミュレーション教育、学生相互実習の実施

### ＜改善すべき方策＞

- ・真のコーディネーターを養成する
- ・統合講義の専門家・教員数の増加
- ・「臨床実習における水準1の診査ならびに治療・術式を模倣できる」の項目立て

## 医学・歯学教育指導者のための ワークショップでの意見 モデル・コア・カリキュラムの改訂の方向性

### ★歯学教育を取り巻く環境変化を見据えた特色ある教育の体系的な実施

- ・医学教育の組み込みは行っているが、何をどこまで教授すべきかのコンセンサスがない
- ・口腔疾患と全身との関連性についてのコアカリの項目立てがない

### ＜改善すべき方策＞

- ・全身を診れる歯科医師の養成
- ・新たな時代の変化に対応したコアカリキュラムの策定（必要な内科知識、在宅診療（全身管理）等）

医学・歯学教育指導者のための  
ワークショップでの意見  
モデル・コア・カリキュラムの改訂の方向性

★未来の歯科医療を拓く研究者の養成

- ・ 研究室配属やコース制を設けて、研究マインドの養成に努めているが、基礎研究室が主なので大学院進学に直結しない
- ・ 学生の知的好奇心の低下

＜改善すべき方策＞

- ・ 研究室体験の充実
- ・ 学会などでの学生発表を奨励
- ・ アカデミックポストの確保
- ・ 他大学との連携を模索

医学・歯学教育指導者のための  
ワークショップでの意見  
モデル・コア・カリキュラムの改訂の方向性

★様々な社会的ニーズに対応した教育

医療安全、医療倫理、チーム医療、男女共同参画等

- ・ 教育を含むチーム医療の専門家がない
- ・ 医療安全の座学は行っているが、依然として経験の浅い歯科医師の針刺し、血液・体液の暴露事故は多い

＜改善すべき方策＞

- ・ 職員対象の研修会への学生の出席を可能とする
- ・ 薬害についてのコアカリ項目立てをする
- ・ 薬害被害者の講義
- ・ 男女共同参画は医学コアカリに合わせる

# 医学・歯学教育指導者のための ワークショップでの意見 臨床実習に係る評価のあり方(改善策)

## ★臨床開始時・終了時における能力の適正な評価

- ・評価の客観性を高める
- ・効果的、効率的な評価方法の確立
- ・学生へのフィードバックが必要
- ・コアカリ、国試出題基準、教授要綱で整合性をとる
- ・口腔と全身の関連領域不足→実態調査の必要性
- ・パート1、パート2のように基礎・臨床科目に分けて国試を実施することが望ましい
- ・指導医以外（スタッフ、患者）からの評価
- ・学生自身の評価